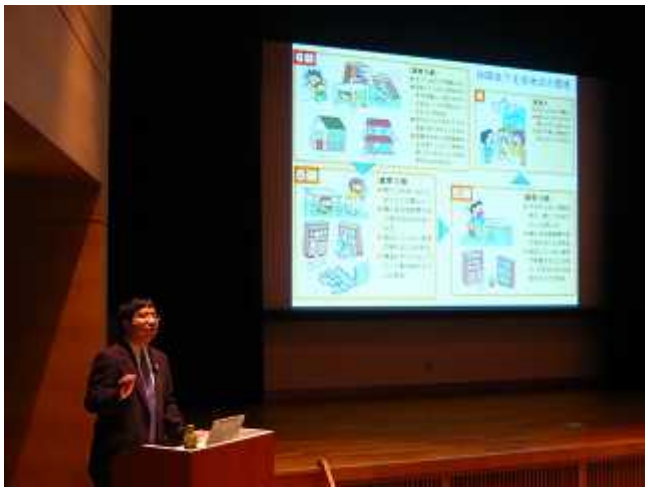
防災公開講座(しずおか防災地域連携第 24 回土曜セミナー)

平成 22 年 2 月 13 日(土) 13:30 から
静岡県地震防災センター　ないふるホール

テーマ　　「2009 年 8 月 11 日駿河湾の地震における揺れと被害の特徴
しずおか防災コンソーシアム･アンケート調査からわかったこと」
講　師　　林　能成　静岡大学防災総合センター

※　聴講者数　９０名



2009 年 8 月 11 日駿河湾の地震における揺れと被害の特徴

しずおか防災コンソーシアム・アンケート調査からわかったこと

静岡大学防災総合センター　　林　能成

2009 年 8 月 11 日に発生した駿河湾を震源とする地震では、静岡県下で 65 年ぶりに震度６以上が観測された。だが、この間、県内で強い地震動がなかったというわけではない。1970 年代に伊豆半島で頻発し死者が出た M6.5 以上の地震では間違いなく震度６以上の場所があった。しかし当時の震度観測網では観測できなかった。阪神・淡路大震災以降の地震観測網の充実は我が国の地震初動体制を一変させたと言える。

今回の地震では、被害は一つの自治体の中で局所的に集中している傾向がある。また、集中している場所は従来から「揺れやすい」と指摘されている場所とは必ずしも一致しない。たとえば牧之原市では 1944 年東南海地震の際に多くの全壊家屋をだした、いわゆる軟弱地盤の地域では、むしろ比較的被害が少なかった。

静岡大学防災総合センターでは、牧之原市および焼津市旧大井川町を対象にして、揺れの強さ、事前の備え、被害状況についてのアンケート調査を行った。調査は太田・他（1979）および太田・他（1998）による「アンケート震度」をベースに、事前の備えや地震直後の行動についての独自の質問を増やしたものを用いた。市内全域の幅広い層から回答を得ることが重要なので、市教育委員会を通じて市内小学校に通う児童の保護者に調査への協力をお願いした。

調査の結果、揺れの強さについては、震度６弱相当の揺れに見舞われた場所は、牧之原市の一部地域（相良小学校および片浜小学校区の一部）に限定されていたことが明らかになった。それ以外の場所の多くは震度５弱から震度４にすぎず、そのような場所では被害はほとんど発生していない。本当に強い揺れに見舞われた場所は、極めて狭い地域であったことがあきらかになった（図１）。

地震後の災害対策への取り組みについては、揺れが強かった地域とそうでない地域で異なった傾向が見られた。強い揺れに見舞われた地域では、家屋の回収や家具の固定といった「いのちを守る」対策が行われているが、揺れがそれほど強くなかった地域では。食料や水の備蓄といった「震災後の生活」対策が主なものであった。真に強い揺れに見舞われた人の経験などを共有して、実態に即した地震対策を進めることが重要である。

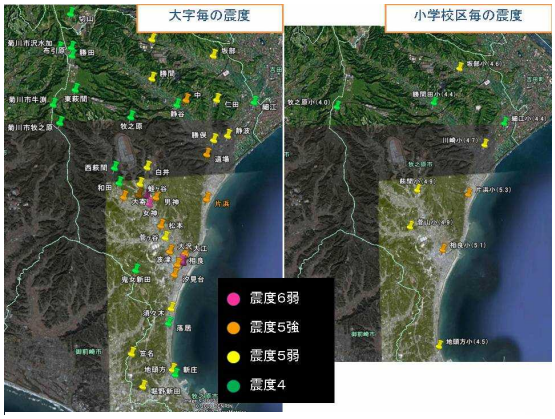


図1：アンケート震度によって求められた牧之原市内大字単位の震度分布